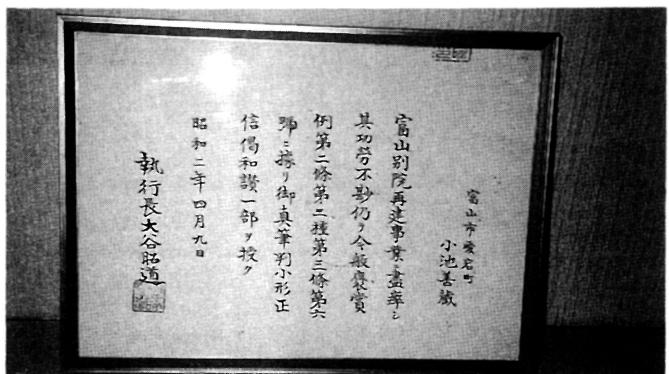


(三)西別院へ納材



父の長い納材生活の内、金額的に大きかったものは金沢の東別院だつたと思う。前にも書いた通り、総工事代金一二〇万円、富山の西別院は、六〇万円だつたと聞いて居る。然し富山の西別院は、先づ地元であり富山市民、注目の的だつた西別院だけに、仕事のやり甲斐として、亦私の店の宣伝効果にも、大いに役立つたと思って居る。それ以前の私の店の仕事は、富山市以外の地が多かつただけに当店の事業内容が、あまり一般の人には知られて、いなかつた様であった。

用材中最も素人に材積が大きく、目立つのは丸柱・虹梁等である。丸柱用の八角に造材された櫻の長材が、富山駅貨物ホームに到着した。多分新潟県で造材したらしい。当時は馬車の時代であるので、荷台に八角の柱用材数本を積み上げ、馬車馬の替りに、当店の木挽き、人夫が梶棒に入り、梶を取り、大きな引き綱数本に、別院側から繰り出された、善男善女数百人が、綱引きして、富山駅—桜橋—木町通りから、右折れして西

院に運んだ。夕方から宵の口にかけての行事である。勿論その間、市電はストップ、諸車通行禁止で警察も出動願つた次第である。大虹梁(多分山陰方面で造材)運搬の時も、そうであった。三、四回行つた様に覚えて居る。大変に仰々しいが、これには西別院側も一策あつたと思う。一般市民の関心が高まれば、それだけ、寄附も多く募る事が出来る為である。當時善男・善女に素かれて行く、八角柱及大虹梁の様子の写真、十数枚あつたが、これも帖单筒に入れて、目立つのは丸柱・虹梁等であつたので戦災で焼失した。

富山西別院は、大正十五年四月二十日(4月22日落慶入仏法要が勤修された。父は表彰された。記念品として左記が贈られた。京都本願寺本山より、褒賞状一枚、建設当時の輪番、金松三直師

ら、供養の意味をも含めて、父の名義で寄附に応じたら、京都本願寺本山から院号が贈られた。

富山西別院の完成により、祖父、父及当店の名声は、一度に富山市内に拡つた。社会的にも、経済界に於いても、急に名声が高くなり、花が一度に咲いた様であつた。当店のこれまでの事業は、富山市以外の土地での仕事が多かつた為、余り一般には知名度が無かつたのが、この事業がきっかけとなり從来か

こじけものがたり 善ニ既、翁記

大正十五年は、

祖父 満六十七才

父 満四十二才
私 滿十四才

二才は、昔から男子の厄年とされて居る。正月元旦の朝、父は厄払いの祈祷の為、氏神愛宕神社へ紋付き羽織袴の正装で参詣した。私は父の後から御酒を持って従いて行き乍ら、

私の父も年が老いたな!頭には白いものがぱつぱつと見える。私も

早く一人前になつて、父の手助け

を、しなければと決意した事を、

今日でも、はつきり覚えて居る。

その時は祖父を見ると、お化けの

様に考えて居た。

私は現在六十八才である。四十代の人を見ると、「この小僧、何が解るか」と、心の中では見下す

工事着手 大正十一年十一月
工事完成 大正十五年四月二十日

総工費 約六〇万円

構造 総檜材使用

施行者 間口十八間
奥行十八間

現場責任者 井波町 松井 角平さん

現場棟梁 東城 助太郎さん

施主 井波町 松井 角平さん

施工者 松井 角平さん

施工者 井波町 松井 角平さん

全く隔世の感である。

別院に運んだ。夕方から宵の口にかけての行事である。勿論その間、市電はストップ、諸車通行禁止で警察も出動願つた次第である。大虹梁(多分山陰方面で造材)運搬の時も、そうであった。三、四回行つた様に覚えて居る。大変に仰々しいが、これには西別院側も一策あつたと思う。一般市民の関心が高まれば、それだけ、寄附も多く募る事が出来る為である。當時善男・善女に素かれて行く、八角柱及大虹梁の様子の写真、十数枚あつたが、それだけ、寄附も多く募る事が出来る為である。當時善男・善女に素かれて行く、八角柱及大虹梁の様子の写真、十数枚あつたが、それだけ、寄附も

多く募る事が出来る為である。別院は、父が大変に因縁が深い事か

新しい西別院建立について、特別寄附を依頼されたので、旧の別院は、父が大変に因縁が深い事か

大谷光熙門主親修遷仏・慶賀法要嚴修

鉄筋三階建、冷暖房完備、総延坪一、二五四坪、富山本願寺と改称昇格

金沢東別院の時と同様、祖父及父は外部に対し、殊更低姿勢に努めた様であるが、内心は満足感で一杯であったと私は想像する。

金沢東別院の時と同様、祖父及父は外部に対し、殊更低姿勢に努めた様であるが、内心は満足感で一杯であったと私は想像する。

父は外部に対し、殊更低姿勢に努めた様であるが、内心は満足感で一杯であったと私は想像する。

父は外部に対し、殊更低姿勢に努めた様であるが、内心は満足感で一杯であったと私は想像する。